

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100032		
法人名	(株)創生事業団		
事業所名	グループホーム イコロの里	ユニット名 愛	
所在地	福岡県春日市平田台1-138-2		
自己評価作成日	平成23年11月10日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月2日	評価結果確定日	平成24年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームイコロの里では家庭的な雰囲気をいつも心がけています。畑に野菜・花などを植え、入居者の方々と収穫し楽しんでいます。地域との交流では廃品回収・回覧版取り・清掃活動・ラジオ体操などを中心に活動を行っています。今回、入居者様の希望で動物園に行きました。下り上り坂がとても多く入居者様も大変でしたが動物と触れ合いながら楽しめ良い思い出が作れました。又、生活の中ではカラオケを購入し入居者様同士が盛り上がりながら時間を過ごしています。天気の良い日は入居者様の好みの弁当を注文し外の庭園にて召し上がったり、月に1回のおやつ作りも恒例となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「イコロ」とはアイヌ語で「宝物」の意味があり、入居者を家族・宝物として日々の関わりを支援している。開設から4年を経て、積み重ねてきた取り組みは少しずつ実を結び、地域との交流が活発化している。地域行事や活動への参加、日常的な買い物等での交流の機会や、2ヶ月に1回、小学校の子ども達の訪問があり入居者の大きな楽しみになっている。隣接する特定施設との合同の夏祭りには地域からの参加もあり、交流・ふれあいができるように取り組んでいる。また、敷地内には広い畑と花壇があり、毎日の散歩コースになっている。「利用者何でも帖」への記載や、センター方式を参考にした独自のアセスメント様式を用いた情報収集をもとに、職員間で本人本位の検討を行い、一人ひとりの思いや状況に向き合い、日常の暮らしの営みを支援している事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念「愛のある里・笑顔のたえない里・安らぎのある里」を掲げ、ユニット名も「愛」「笑」としている。また、スタッフ一人ひとりと理念を共有する為、毎朝朝礼時に復唱している。	イコロとはアイヌ語で宝物の意味があり、入居者を家族・宝物として日々の関わりを支援している。また、理念の言葉である「愛」「笑」「安らぎ」を職員が共有し、理念に基づいたケアやサービス提供ができるように実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週公民館へ回覧板を取りに行ったり、近隣のお店での買い物や日課としている。清掃活動やラジオ体操、公民館での盆踊りの練習等に積極的に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	年々、地域に溶け込み、地域行事の参加や日常的な買い物等、地域密着型サービスとして地域との交流が活発化している。2ヶ月に1回、小学校の子ども達の訪問があり入居者の大きな楽しみになっている。隣接した有料老人ホームとの共同の夏祭りには地域からの参加もあり、交流・ふれあいができるように取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生との交流などを通して、地域の子供達に実際に認知症の方と触れ合ってもらえる機会を設けている。また、近所のお店の方にも認知症を理解して頂き対応してもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は二か月に一回開催し、行政・地域の代表・ご家族様に参加してもらっている。利用者状況・ヒヤリハット・活動報告を定番の議題とし、利用者の日常生活を撮影したビデオを觀賞したり、その時に応じた議題を一つ取り上げている。	入居者・家族4名・区長・民生委員・市職員・包括支援センター職員等の参加により定期開催されている。ヒヤリハット事例や入居者の身体状況の報告等、きめ細かい資料作成を行い、意見交換できるように取り組み、運営に反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度に関しては、市町村からケアプランについての個別の相談・指導があったり、また、書面に関する調査があったりとし、協力関係を築いている。	日頃からケアプランについて等、情報交換を行っている。運営推進会議には市職員が参加し、空き室の情報交換等、連携を積極的に図るよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。例えばペット柵の使用一つにしても、位置によっては身体拘束につながる為、管理者とスタッフが話し合い、必要な所だけペット柵を使用する様に印をつけている。	身体拘束をしないケアの実践を職員間で確認し、支援を行っている。言葉かけや対応等についても意識を持ち、研修等で確認しながら抑圧感の無い暮らしの支援を行っている。玄関は日中の施錠を行わないことについて、契約時に同意書を取り交わしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日入居者様の身体状況を観察し、小さな内出血でも報告にあげるように努めスタッフ全員で虐待防止に努めている。関連法について学ぶ機会がなかなか持ていないので、今後は外部研修に積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する研修は行えていないが、成年後見人を立てた入居者様がいる。	成年後見制度の利用があり、制度上の内容が把握できる状況にあるが、研修等の内容としては不十分であったと認識されている。今後、充実を図る計画になっている。	権利擁護に関する制度について、関係機関や行政との連携を図りながら、運営推進会議等における、家族や地域に向けた情報発信にも期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をとり理解して頂いている。全ての内容を文章、口頭で伝え、しっかり納得の上不安がないようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時に個別に意見や要望を聞き取り、運営推進会議の際に外部へ表せる機会を設けている。又、苦情ノートにどんなに小さなことでも記入し、全職員で共有している。	運営推進会議に家族の参加が多く、その際、意見や意向の収集に努めている。交換ノートの作成やイコロ便りで情報の共有を図り、事業者側の運営方針も伝える機会としている。入居者の意見は「利用者なんでも帖」を作成して職員間で入居者の思いを把握し共有している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りを中心に、意見や提案を聞く機会を設け、全体では月一回のスタッフミーティングの場で意見交換している。また個別に面談を行い、個人の意見を取り入れている。	毎日の申し送り時や毎月1回のミーティングで出た意見を、管理者合同ミーティングにて検討し運営に反映させている。日頃から管理者は働きやすい職場環境作りを重視し、風通しのよい関係作りに取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力・実績・仕事ぶり・態度など把握し評価を定期的に行い整備している。また、無理のない勤務設定をし働きやすいように環境を整えている。働きやすい職場を一番としている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては本人の意欲を最重視している。また、それぞれの職員の能力を生かし、それに合った係(仕事)や担当を努めてもらい能力を發揮してもらっている。	性別・年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、資格要件は問わないが、採用後は資格取得への姿勢を重視し、取得に向けたサポートを行っている。業務担当等、役割を担ってもらいながら、主体的なかわり方を求めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	就業時に「グループホームとは」という内容で、人生の先輩ということを頭に入れながら、言葉使いや対応をグループホームの特性を活かすように指導している。また、人権教育に関する本を定期購読し、職員に読んでもらうよう努めている。	日々の関わりの中で「人権」に対する意識を職員間で共有する為、ミーティング等で話し合う機会を持ち、職員の資質の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、事業所内での研修など計画を立てレベルアップにつながるようにしている。報告書にてスタッフ全員に共有してもらい育成に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は同業者と交流する機会を設けることができていなかったため、来年度は他事業所の運営推進会議に参加したりし、他ホームの良い所やサービスの内容を学び、サービスの質の向上に努めていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階ではフェースシート等を参考にし日々の生活を手探りしながら、その方と信頼関係を築いている。自分の意志を伝えることが出来ない方もいるので、過去の生活歴をこまめに聞き取り記録を行いスタッフ同士で話し合う場を設けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の困っていることや要望などを聞き取りスタッフに伝えている。又、面会時には普段の生活面や健康面をその都度お話している。さらに交換日記や手紙などでより深い信頼関係を築ける様に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時まず「料理をしてほしい」という要望があればそのサービスを行い、外出支援が必要としているのであればそれを中心にサービスを導入している。又、必要な方はマッサージを利用されたりしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、料理、庭いじりなど入居者様が得意とされることをスタッフと一緒にやり、教えてもらったりしながら、信頼関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がお弁当持参で来られ、楽しく過ごされている方もいる。なかなか面会できない家族に関しては定期的にホームでの様子を撮影した写真を送ったりしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた自宅に週一回帰ったり、買い物後に本人の希望により自宅の前を通ったりして馴染みの場所を大切にしている。本人が今まで育ててきた犬を連れて来てもらい喜んでもらっている。	訪問理美容もあるが、馴染みの理美容を家族の協力にて利用する入居者もおられる。職員が同行し自宅に帰ったり、家族がお弁当持参で訪問し、入居者と食事を共にする等、馴染みの関係が途絶えないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生活歴を事前に把握し入居者同士の関係が上手くいくように支援している。しかし人間関係が上手くいかない方達もいるのでトラブルにならない様に支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を大切にしている。例えば前の入居者様のご家族様が参加されているコーラスを入居者様と一緒に見に行ったりしている。又、手紙を送ったり面会に行ったりとしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを把握し、全職員で共有する為に独自の「何でも帳」を作成している。困難な場合はその方の生活歴や長年の付き合いから思いを汲み取り支援している。	センター方式をもとにする独自のアセスメント様式や「何でも帖」への記載を通じて、思いや意向の把握につながる情報収集に努め、職員間で共有している。意向の把握の困難な入居者には、その方の背景を捉え支援を行っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に極力自宅に訪問し、その方の暮らしの状況や環境を把握している。馴染みのある仏壇や家具を持ち込んで今までの生活が継続できるように支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン・尿・排便・水分などをチェックし変化を見逃さないようにしている。又、グループホームならではのゆったりとした時間の中でコミュニケーションを多くとり一人ひとりの現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たって担当者の思いを組み入れ、本人・家族と話し合い計画を作成している。又、モニタリングに関しては達成状況を担当に記入してもらい、見直しにつなげている。	独自のアセスメント様式は定期的に見直され、本人、家族の思いや意向を確認している。各入居者の短期目標を事務所内の壁に掲示し、日々のケアやサービス提供を確認できるように取り組んでいる。毎月のモニタリングでは、出された意見を担当者会議で検討し、一人ひとりの状況に合った介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。又、気づきや工夫を伝達帳や「何でも帳」に記入し出勤時に目を通し把握する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば家族が遠方にいる方は、病院付き添いや外出支援など柔軟に行えている。多機能化という面に関しては事業所として考えていきたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例えばグループホームに入居した後も、もともと暮らしていた地域の敬老会に参加し本人が楽しめるように支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居面談時に医療体制の説明をしている。かかりつけ医による月2回の往診と歯科医による往診等で適切な医療を受けられるように支援している。	一人ひとりの希望のかかりつけ医に受診できるように支援している。「医療記録ファイル」を受診時持参し説明を行っている。他科の受診も家族状況に応じて職員が対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の看護師には困った時に常に相談している。又、隣接している同グループの看護師にも協力を得て相談している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、定期的に面会を行い病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、医療連携室と定期的に連絡をとり、入居相談にも繋がっている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ここ2年、終末期を迎えた入居者様はいない。重度化を迎えた入居者様は適切な医療機関を紹介している。看取りの体制はまだ整っていないが、進めて行くという方針は決まっている。	入居時、重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。今後は、医師の助言も受けながら、看取りに向けた体制を構築していきたいと考えている。本人、家族の現状としての意向確認や、医療との連携体制の充実、職員の理解や意識等について、今後も一つ一つ積み重ねていく意向である。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、スタッフは救急救命講習に参加し心肺蘇生法や応急手当の訓練を学んでいる。又、緊急時対応の流れを定期的に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い災害対策に関する研修にも参加している。又、地域の消防訓練にも参加している。	ホームは平屋建てのオール電化になっており、災害時対策としては隣接する有料老人ホームとの連携も図っている。夜間想定訓練を行い、職員同士で災害時のシミュレーションを確認している。備蓄も充実している。	運営推進会議を通じた働きかけを継続していくことにより、地域の理解や協力も深まり、地域づくりの視点も含む災害対策の充実につなげていくことが期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室への出入りの際は一言声かけを行うようにし、プライバシーを尊重している。日常の会話では、まずは「人生の先輩」ということを頭に入れその方の生活歴を把握し声かけの工夫など行っている。	入居者の行動や思いを把握するために「なんでも帖」を作成し支援を行っている。入居者本人の話した言葉が記載され、職員間で共有、検討しながら、思いや意向を受け止めた対応ができるように取り組んでいる。些細なことでも、入居者の気持ちを傷つけないように、入居者の人格を尊重した対応を心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のやりたい事を第一に気持ちを尊重している。例えば何を食べたいかを一緒に相談し、TVで流れている食品のCMをみて「食べたい」と言われた一言も大切にしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状況に応じたペースに合わせて、外に出たいというのであればそのようにしてもらい、入浴もその日その方のペースを大切に支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットなどは訪問理美容を利用し、外出時やイベントごとにはメイクアップも行っている。又、化粧の習慣のある方は化粧水なども使用している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者も一緒に台所に立ち食材を切ったり、料理のつぎ分け・配膳・片付けも一緒に行っている。定期的に食べたいものを聞き取り提供している。	法人としての献立をもとに、各フロアで工夫しながら食事を提供している。個々に応じた力を発揮する場面として、積極的に台所に立っていただくなど、入居者の楽しみの一つとしても支援している。外食や誕生日の催し等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関わることは食事係が中心となり、各自の状況に合わせた栄養を考えている。例えば、朝食・昼食・夕食いずれか召し上がらない時は、次の食事の量を増やしたりパンや甘いものなどを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを基本とし、特に自力で口腔ケアが出来ない方については通常のブラシ対応のみではなく特殊ブラシなどで歯科医に相談し清潔保持を保っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様1人1人の状況に応じてトイレの間隔も違うので個々に合わせたトイレ誘導を行っている。オムツ使用の有無等、スタッフミーティングで話し合い状態に合わせて使用している。	一人ひとりの排泄状況やリズムを把握し、さりげない観察と声かけでトイレでの排泄の支援を行っている。トイレマットも使用し、家庭と変わらない雰囲気作りにも配慮し自立支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない場合は水分を多目に取ったり、運動をする機会を作っている。又、バナナやヨーグルト・ヤクルトを毎日提供し自然排便につなげている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の昔からの習慣やコンディションなどタイミングを見計らって入浴してもらっている。又、足浴や入浴剤での雰囲気作りなど状況に応じた工夫で清潔保持に努めている。	毎日、入居者の意向にそって入浴できるように環境を整え、一人ひとりの体調に合わせて調整している。特殊入浴対応時のスペースも確保され、今後の状況の変化にも対応できる環境となっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操・家事・洗濯・散歩を日中支援し生活のリズムが出来るように支援している。夜間寝付けない方についてはすぐに寝かしつけるのではなく、一緒に会話したりホットミルクを提供したりと安心して眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬を把握できるように処方箋や医療記録を確認している。服薬拒否がある方は医師・薬剤師に相談し、錠剤を粉に変えてもらうなど形状を変えた支援をしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって得意なこと苦手なことさまざまであり、決してスタッフ側で無理に押し付けることなく個々にあったレクリエーション・散歩・料理・買い物など1日の生活の楽しみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物はスタッフ付き添い支援している。又、出かけようとする時は止めたりせずに本人の希望に合わせて外出している。又、本人の希望をお聞きし例えば外食やデパートに出かけられるように支援している。	日常の関わりから外出の希望を聴き、一人ひとりに合った外出支援を心がけている。敷地内に広いスペースの花壇・畑があり、散歩も日課の楽しみの一つになっている。日々の食材の買い物も、入居者にとって季節感を感じる機会にもなっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで、毎日の買い物の支払いや定期的に使えるようにすることで自立心を保てるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば家族との関係性も考えて連絡できるようにしている。手紙のやり取りは暑中見舞いや年賀状を中心に行っている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に家庭的な雰囲気が出せるように玄関やトイレにマットを敷いたり、台所では一緒に料理ができるように開放的な対面式のキッチンになっている。又、季節感を取り入れた飾り付けなど1年の移り変わりを楽しめるように工夫している。	共同玄関から各ユニットの玄関まで、ゆとりある空間があり、来訪者を出迎えてくれる。天井の明かり取りから居間や廊下へ自然光が入り、柔らかい空間として居心地が良い。リビングの傍には掘り炬燵が用意され、洗濯物を畳むなど生活リハビリができる空間にもなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での席は決めておらず入居者同士の関係性を見ながら座ることができるようにしている。又、ソファを配置しており、その時々気分によってくつろげる空間作りを行っている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋であると分かりやすいように入口に本人の写真や好きな小物を置くようにしている。使い慣れた寝具や家具、小物は自由に持ち込んでもらい居心地よく過ごしてもらっている。	居室の入り口には名前ではなく、一人ひとりの好みの人形や絵・写真等、わかりやすく表示している。それぞれ使い慣れた家具や小物を置き、居心地の良さに配慮している。仏壇を持ち込まれ、家庭と同じようにお参りしている方もおられる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は場所が分かりやすい様にしており、できるだけ1人で行けるようにしている。又、見やすい日めくりカレンダーを作り、日にちが分かるようにしている。		